

玉井小だより

平成27年11月18日

大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

やりきる力

先日の玉っ子学習発表会にはたくさんの方にお越しいただき、温かな拍手をいただきましたことに、心から感謝しております。

子供たちを心から大切に思ってくださっている方がこんなにたくさんいるのだと、本当にうれしく思いました。ありがとうございました。

どの学年の子供たちも、練習してきた成果を十分に発表できたようで、「やりきった充実感」を味わうことが出来たようです。

今回のような「成功体験」を積み重ねていくことで、子供たちは自分に自信をもつことができるようになります。そして、自分の学校や自分の住む地域に誇りをもつようになっていくのだと思います。

そのときに、なくてはならないのが大人の温かいまなざしです。子供たちの努力を支え、認め、そしてほめてくれる大人の存在がどうしても必要です。

これからも保護者のみなさま、地域のみなさま方のご支援とご協力をお願いします。



【1年生 初めての学習発表会】



【3年生 一人の行動が世界を変える】



【6年生 先人の熱い思いを劇に】

陶芸教室



【自分の思いを茶碗に表現します】

11月13日(金)、5年生で陶芸教室を行いました。陶芸工房『氏家窯』(本宮市荒井)の氏家寿男さんが先生です。氏家さんは3年前から本校で陶芸教室をやってくださっています。今回はつくりたいもののイメージをふくらませ、絵に描く時間です。

授業後の氏家さんが次のようなお話をされました。

「子供たちはとても素直です。でも以前の子供たちとはやはり少し違って、子供たちが作りたいものをデ
(裏へ続きます)」

ザインしたのですが、『肌色は作れませんか。黄色をつくりたいんですが・・・』などと自分を主張するようになりましたね。きっとおもしろいものが出来ますよ。

震災後は特に感じますが、外に向かって自分を表現していく『強さ』のようなものが、これからの福島には必要なのではないのでしょうか。」

あの震災を乗り越えた子供たちは、確実にたくましくなっているようです。どんな茶碗や皿が出来るのかとても楽しみです。

変わらないもの

今年の玉っ子学習発表会を通して強く感じたのは、歴史の重みや伝統の大切さです。

5年生の『本揃田植え踊り』は大玉村の伝統芸能です。1年生『「桃太郎」や3年生の『半日村』は日本の有名なお話ですし、4年生の『こきりこ節』や『さくらさくら』は言うまでもなく日本を代表する音楽です。

そして2年生のイソップ寓話『アリとキリギリス』はギリシャの時代からずっと語り継がれ、世界中で読まれてきたお話です。

さらには、6年生が演じた大玉村の先人、野内与吉さんの生涯。

歴史と伝統のあるものは、圧倒的な存在感があり、心に響くものがあると改めて感じました。

長い時間を経ても、なお現代に残っているものは、やはり「素晴らしいもの」「意味のあるもの」「価値のあるもの」です。人間の知恵や汗と涙、気の遠くなるような努力が詰まっているのだと思います。そして現在の文化や生活は、その先人の努力の上に成り立っています。

グローバル化が急速に進展し、常に変化を続ける現代です。

しかし、そういう時代だからこそ、一層『田植え踊り』や『こきりこ節』は大事な意味をもってくるのではないのでしょうか。

時代が変わっていけば変わっていくほど、変わらないものの価値は高くなっていくはずです。

これからも歴史と伝統を大事にした教育を進めていきたいと考えています。地域みなさまや保護者のみなさまのご協力をお願いします。



【2年生 ギリシャ時代から生きる寓話】



【4年生 日本文化の継承】



【5年生 大玉村の伝統を守り、伝える】